

地域と協同の 112号

研究センターNEWS

巻頭エッセイ

生協運動への期待

近藤 充代(日本福祉大学経済学部)

生協の新しいあり方を模索し議論する研究会に参加しませんか」と、兼子厚之さんからお誘いを受けたのは2009年の初夏の頃でした。その研究会は、地域と協同の研究センターの「生協の（未来の）あり方研究会」といい、実務家と研究者の共同研究を通して、激しい社会変化の中にあって、今後、生協はどうあるべきかについて検討し、具体的な提言をめざすというものでした。

私自身はずっと消費者法領域の研究をしてきて、いつか生協運動についてきちんと勉強したいと思ってきました。1990年代以降、規制緩和・構造改革の下、消費者の自立、自己責任が強調され、消費者法領域でも様々な立法がなされました。私がもっとも気懸かりに思ってきたのは、確かに消費者が闘う道具は整備されてきましたが、それを活用して闘うことができるのはごく一部の消費者であって、被害にあっても泣き寝入りせざるを得ない消費者が大半である、ということです。上からの消費者の自立ではなく、消費者自身の、下からの消費者の自立をどういう道筋で実現していくのかを考えたとき、生協運動はその中心となりうるのではないかと、との期待を持っていました。

30数回に及ぶ研究会の中でいくつもの生協の理事長さんや組合員の方々の生協への思いを聞く機会を得、さらに研究会で議論をし、原稿執筆を進める中で多くの協同組合に関する文献を読むことによって、その期待は間違っていなかったと確信しました。これからの時代こそ、協同の、生協の真価が問われていると思います。

研究会の研究成果は今年10月に『未来を拓く協同の社会システム』（日本経済評論社）として刊行されました。生協に対する熱い思いと、それ故こそその厳しい批判が詰まった本書をぜひ多くの方々に読んでいただきたいと思います。



CONTENTS

巻頭エッセイ 生協運動への期待 近藤充代 1

特集

第10回三河地域懇談会
地域のことを知ろう・語ろう
～豊川市のまちおこしに学ぶ～
開催報告 2 - 6



情報クリップ 7 - 9
企画案内・書籍案内 10

研究センター 12月の活動

- 4日(水) 常任理事会
- 5日(木) 事務局会議
- 7日(土)・8日(金) 社会文化学会第16回全国大会
- 9日(月) 寄付講座講師会議
- 10日(火) 三重のつどい 世話人会
- 11日(水) F職員の仕事を考える センター長ヒアリング
- 12日(木) 食と農パネル世話人会
- 18日(水) 協同の未来塾企画委員会
- 21日(土) 東海交流フォーラム実行委員会/理事会
- 22日(日) 生協の未来のあり方研究会

特集 第10回三河地域懇談会

地域のことを知ろう・語ろう

～豊川市のまちおこしに学ぶ～ 開催報告

2013年11月16日、豊川商工会議所にて、40名の参加で第10回三河地域懇談会を開催しました。意外と知らない地域のことを、知る機会にしたいと実行委員会では話し合い、準備をしてきました。10回目の記念の企画は、豊川市出身の山口保治さん作曲の童謡「かわいい魚屋さん」で始まりました。ニュースではその基調講演と、3つの講話の概要をご紹介します。 文責：伊藤小友美(事務局)

基調講演 B-1 グランプリin豊川の取り組みについて

「豊川いなり寿司」で豊川市を盛りあげ隊 隊長 笠原盛泰さん

B-1 グランプリは豊川だけでなく、東三河をまきこんで大事業でした。



笠原さん

「豊川いなり寿司」で豊川市を盛りあげ隊は、平成16年～18年、商工会議所が豊川名物「いなり寿司」の活動を始めたことと、平成19年～20年、市長がマニフェストで「いなり寿司ブランド化」を掲げ、研究会を設置

したことが契機で、平成21年7月に設立されました。市内で「いいな、いなり寿司の日」や、いなり寿司マイスター認定講習会、いなり寿司フェスタ等を開催しました。

B-1 グランプリは、愛Bリーグに加盟しないと参加できない、試験があるらしいと聞きガイドラインに沿って努力をしました。半年ほどで正会員の認定証が届き、平成22年、第5回B-1 グランプリin厚木に初出展しました。結果は、初出展で6位入賞の快挙でした。愛Bリーグの震災支援活動にも参加しました。被災された方々が喜んでくれて、こちらが笑顔、元気をいただきました。

全国大会の前にまず地区の大会をということで、2年前に地区大会を運営しました。市民ボランティアも募り、2日間で21万人の来場者がありました。いいイベントとして、愛Bリーグの本部からも評価されました。平成23年11月、第6回B-1 グランプリin姫路に、看板もきれいにし、ボランティア体制も70人にして挑みましたが、残念ながら入賞はなりませんでした。

昨年1月に、豊川でのグランプリ開催が決定し

ました。盛りあげ隊だけでなく、行政、会議所、ひまわり農協などと一緒に仲良く誘致活動ができていることや、中日本での開催が今まであまりなかったことなどで開催が決まりました。

誘致が決定的から1年半、さまざまな活動をしました。B-1 グランプリは「まちおこし」なんだという説明をし、講演活動を数十回行いました。マスコミの注目はすごいと思います。お金をかけた広告はできない中で、話題をつくるのが「まちおこし」です。新聞、テレビなどの取材を受け、イベントも85回開催しました。結成当時から経済波及効果も生んでいます。ブランド化事業も始め、いなり寿司の素も開発しました。

豊川での大会は、東海道を意識し、きつねを意識してポスターをつくりました。会場は分散しています。まちなかでやるので、まちに人があふれるようにと考えました。

グランプリはお客様の箸による投票で決まりません。市長や大村知事も来場されました。朝、9時30分の開会ですが、この段階で人があふれてしまいました。初日の会場は立錐の余地がないほどで、ボランティアが機能しなくなりました。統制不可能です。私は本部にいましたが、これ以上入れるとまずいというので、会場への入場制限をかけました。6つの会場が、どこも満員です。名古屋方面からの集客がすごくて、初日に30万人を越えました(来場者は2日間で58万1千人)。前売りチケットは、2日前に予定分を完売しました。朝、チケットを買うために4時から並ぶ



人がいたほどです。豊川のまちを歩いてもらい、まちを知ってもらうことがコンセプトですが、シャトルバスも機能しなくなりました。歩くと30分ですが、シャトルバスが1時間かかりました。鉄道も、JR豊橋駅で飯田線に乗るために2時間かかったそうです。料理も足りなくなりました。

翌日は雨でしたが、たくさんの方がいらして驚きました。ボランティアスタッフは4900人で交通整理や清掃活動をしました。

パフォーマンスで並んでいる方を飽きさせないようにしますが、ゆるキャラや踊りは、見ていて楽しいものです。すばらしいパワーです。料理がおいしいだけで投票するわけではありません。ゴールドグランプリをとっても、賞金や賞品はありません。でっかい箸がもらえるだけで、それも一年後には返さないといけません。浪江焼麺太国がゴールドグランプリを取りました。このB-1グランプリはまちおこしのイベントですが、浪江には、「おこすまちがない」ということです。今、原発事故で浪江のまちには入れません。分散しているメンバーがこのために集まってやっています。「まち残し」だというメッセージは強烈でした。「来年は浪江で開催したいけれども、できないので郡山でやります。」という涙ながらのメッセージをいただきました。

B-1グランプリの第一回は八戸で行われました。せんべい汁研究所の地元です。商店街はシャッター通りとなり、まちが疲弊していることを心配した青年団のメンバーが、まちおこしについて話し合ったことがきっかけだそうです。郷土料理のせんべい汁はなかなか特徴的で、これで人を呼べないかと相談しました。富士宮には焼きそば、小倉では焼きうどんがあります。全国に呼びかけたら10団体が、八戸に集まりました。10団体が1万7千人で始めたイベントです。富士宮が優勝して、次は富士宮で開催し、久留米、横手へ続

きました。第5回は初めて関東(厚木)で開催し、約60万人の来場者がありました。

豊川市は18万人の市で、東三河単位で受けないと開催は難しいと考え、東三河70万人で受けようと準備をしました。<B-1グランプリの真実>は、グルメイベントではないということです。出店ではなく出展です。地域をPRすることが目的です。ですからほとんどが赤字です。遠方から参加すると、交通費だけでも一人数万円かかります。<B-1グランプリの真実>は、お金を使った広告宣伝できないことです。マスコミの報道に取り上げてもらって活動をPRします。<B-1グランプリの真実>は、どこでも開催できるわけではないということです。愛Bリーグに加盟する正会員の団体の地元で開催するのがルールです。「出展することだけを目的としない。補助金ありきの運営はいけない。市民をまきこむ。」というルールで、例えば私がいなり寿司屋だったら隊長にはなれません。

地域ブランド化に向けた公認食品を開発していますが、これから1%のロイヤリティが入ります。B-1リーグというツールを使った、市民のまちおこし運動の自立と活性化を支援する、新しい仕組みの創出もあり、まちおこし戦略はどんどん進んでいます。B-1グランプリは食を通じたテーマパークであり、出展者にとって、まちをPRする大いなるステージと言えます。まちおこしに終わりはありません。B-1グランプリという素晴らしい事業を、みんなで協力して成功させたという、記憶と経験を「地域の財産」として、今後のまちおこしに活かしていきたいと思っています。B-1グランプリin豊川は、自分のまちを、自分たちでつくるという主体性と、我がまちを未来の子ども達にも引き継ぐという郷土愛の昂揚につながった、素晴らしい経験になったと思います。

講話1 「我が」Aと地域のつながり

<JAひまわり 総合企画部 部長 兼 企画課長 木藤昇一さん>



木藤さん

平成2年、当時、宝飯郡4町と豊川市の5JAが合併して設立されたのがひまわり農協です。管内は1年を通じて温暖な気候です。作られている農産物は、ミニトマト、大玉トマト、イチジク、大葉、メロン、イチゴなどがあり、生

産額日本一のバラや、豊川発祥といわれているスプレー菊など、施設園芸農業が盛んな地域です。数年前、生産者で作るバラ部会は、日本農業賞の集団組織の部で大賞を受賞しています。サムライローズの赤いバラで有名ですが、バラカンパネラ、やまとなでしこなど変わった花があります。B-1グランプリでもバラを通じたつながりがあり、青森の「十和田バラ焼きゼミナール」の応援をしました。

JAひまわりには、3つの理念があります。存在・経営・行動の3つです。約20年位前に役職員で作りました。存在理念は「暮らしをみつめる」、経営理念は「組合員の営農と生活に対して最大奉仕を目指す」、行動理念は「協同の原点に立ち返り農業とそこに住む人々のかけ橋になる」です。

地域貢献としては、農業の維持支援、住みやすい地域環境として農地を保全して、地産地消を促進していくための直売事業に、力を入れています。ワイワイ農園では子ども達と一緒に、トウモロコシ、サツマイモなどを作っています。

地域の生活文化にもしっかり目を向けていこうと、ワイワイ活動(健康活動や文化活動)に平成19年度から取り組んでいます。リタイアした男性を対象とした料理教室なども開催しています。女性組合員が増えている(約4割)にも関わらず、総代や地区運営協議会委員は非常に少ないのが実態です。組合運営にどんどん女性参画を呼びかけしていかないといけないと問題意識も高まっています。

介護福祉事業やいろんな取り組みをいろんな角度でしています。それぞれの取り組みは決して大きくはないのですが、地域の中でいろんなところに関わっていこうとしています。地域とのつながり、地域活性化の目をどんどん見出していきたいと思っています。

JAひまわりが「十和田バラ焼きゼミナール」にバラを贈り激励、「バラゼミ」が当JAのバラをPRするという相互連携



講話2 穂の国の歴史 入門

神主の目を通して、穂の国の歴史の入門の入門をお話しさせていただきます。

古代、東三河は「穂の国」と呼ばれていたとも言われています。古事記の中に、「朝廷別王(みかどわけおう)が「三川の穂別(ほわけ)の祖」という記述があり、穂の国は、三河の国の一地方の可能性がります。結論としては立証されていません。



三宅さん

穂という地名がどう変わっていったのでしょうか。穂郡(ほのこおり)の穂は、ありまるほのごちそうという意味です。寶飫(ほお)郡の「飫」がご飯の「飯」の字に

似ていることから、宝飯郡になったと言われています。

国というレベルのものの存在は立証できていません。三河地域の一地方とするのは木簡を確認しています。7世紀後半、もしくは大化の改新前の東三河というのが、現状の見解です。

地名にも目を向けてほしいと思います。

< 砥鹿神社 権禰宜 三宅勝晴さん >

砥鹿神社は一宮町にあります。全国各地に「一宮」はあります。「一宮」というのは、11世紀後半に制度が確立しました。諸国のうちで筆頭格の神社です。例えば巖島神社が一宮です。国司が最初に訪れる神社でもあります。三河二宮は知立神社、三宮は猿投神社で、尾張の国の一宮は一宮市の真清田神社、二宮は大縣神社、三番目が熱田神宮です。

砥鹿神社には天災や戦災からの復興の遺産があります。境内は昼でも暗かったそうですが、昭和34年の伊勢湾台風で、本殿は無事でしたが、たいへんな倒木が出ました。その木だけで現在の社殿がつけられました。大鳥居は、今年1月に豊川市の文化財に指定されました。諏訪西町に、もともと天保年間、本宮山(砥鹿神社の奥宮がある)を遙拝するとして建立されたものですが、広島原爆翌日の空襲で、鳥居が欠け、悲惨な姿になりました。移築して現在も



残っています。本宮山の本の字が削られています
が、B29の被弾跡です。今に伝え、平和の尊さを訴えていると思います。災害の歴史の遺物もあります。

神社仏閣を通したまちづくりや、どのように信仰されてきたかを学ぶことは、地域独自の行事や

開発のヒント、まちづくり、まちおこしにもつながると思われま
す。神社仏閣に積極的に足を運ばれ、よりよいまちづくりのために
尊い活動をされ、ますます豊かで幸せ多い人生を送られることを祈
って、話を終わります。

講話3 東三河の戦跡を通して平和を語り継ぐ

豊川海軍工廠は、東洋一の規模と言われた海軍
直属の兵器工場で、機銃、弾丸の製造等を行って
いました。工廠では、もっとも多い時に6万人近
い人々が交代で働いていました。1945年3月には、
12～13歳の国民学校高等科児童までもが動員され
るようになりました。職員や工員以外に徴用工員
（女子挺身隊を含む）や動員学徒、朝鮮人徴用工
のように強制的に動員された人々がたくさんいま
した。周辺に寄宿舎や、市民に開かれた共済病院
もありました。

海軍直属の兵器工場は全国に14ありました。横
須賀、呉、佐世保など富国強兵策の明治時代の海
軍工廠に対し、豊川は昭和の軍国主義時代の工廠
と言えます。豊川を除いてはすべて海岸沿いにあ
ります。船をつくるからです。豊川だけが内陸に
あるのは、近辺に大きな野原があり広い土地を確
保できたこと、住民とのトラブルが起きないこと、
兵器輸送のため東海道線に近いことなどの理由が
あります。

豊川海軍工廠は、旧宝飯郡豊川町・牛久保町・
八幡村にまたがって建設されました。1943年国府
町も含め合併し、豊川市が誕生しています。背景
には海軍工廠の土地をまとめてひとつの自治体に
しようとしたということがあります。

1945年8月7日、米軍による爆撃がありました。
午前10時13分から39分までのわずか26分の間に、
B29爆撃機124機、P51戦闘機45機の攻撃を受け、
死者2500人以上、負傷者1万人以上の被害が出ま
した。

あまり知られていませんが、軍事施設の中の遺
体は軍隊のものと言われて、家族たちがいったん
引き取った遺体も戻されて、首には名札をかけら
れ、まとめて赤塚山に仮埋葬されました。悲惨な
ことに、6年後の1951年6月、発掘作業が行われ
ました。なかなかやり手がなく、囚人らがその任
にあたったそうです。

少年（写真）は、15歳、豊橋工業学校の電気
科在学中に亡くなりました。もともとは当時も野
球は禁止されていますが、彼は浪商でプロ野球を
夢見ていたそうです。川上哲治さんより10歳く

<豊橋空襲を語り継ぐ会 安間慎さん>

らい若くて、もし元気だったらプロ野球の選手に
なっていたと思います。実家が新城にあって疎開
してきて、野球をやれないまま豊橋工業学校の電
気科に通っていましたが、すぐ豊川海軍工廠に連
れて行かれて亡くなったということです。私は工
業高校の生徒達と一緒に、42人の遺族を訪ねる
取り組みをして文化祭で発表しました。ひとりの
生徒が出かけて行き、アンケートに従って聞いて
きたら、そのお母さんが健在で、「線香一本あげ
てってくれないか」と言われたそうです。仏壇の
上に写真が飾ってあったのを見たら、自分達の先
輩なんだけど、身近な人として顔を見ることがで
きたそうです。それじゃ、もう一度遺族に頼んで
写真を借りて来ようということになり、42人の
うち35人まで写真を見つけ、写真と一緒に調べ
たことを発表しました。写真で見ると一気に、戦
争というものの残酷さ、青春から未来へ向かって
の人生が断たれることの大きな衝撃を感じます。
ひとりひとりの人生がどうなるのかということで、
戦争や平和の問題を考えることが大事だと思いま
す。地元の草の根の活動は、自分達のまちやむら
や職場の中で、どういう戦争の問題があるのかを
調べることが重要なことだと思います。明日もそ
ういうことを考えながら歩きたいと思います。



安間さん

基調講演と3つの講話を受けて、4つの分散会で意見交流をしました。分散会のまとめでは、「地元のことなのに知らない歴史がたくさんあることがわかった。勉強になった。」「地域おこしをするためには自分の地域が好きになることが大事」「B-1グランプリは商業的なイメージがあったが、そうではないことがよくわかった」などの報告がありました。昼食には7種類のいなり寿司を用意し、それぞれの店の味を楽しみました。いなり寿司の酢について交流がはずんだグループもありました。

まとめ・閉会挨拶



八木さん

おつかれさまでした。今日は、朝から3時まで、いろいろ学び、懇談ができたかと思えます。10回目ということもあり、地域のこと、くらしのこと、あるいは歴史、文化、協同を語り合おう、学

ぼうと結構盛りだくさんの企画だったと思います。始まる前に童謡もありまして、私は童謡を歌ったことはないのですが(赤ちゃんのころ歌ったかもしれませんが)、今日、この三曲(「かわいい魚屋さん」「ナイショ話」「ふたあつ」)は歌えました。知らない間に歌えるようになっていたということですが、山口保治さんが豊川出身ということも知りませんでした。文化の香り高い懇談会だと思いました。

メインテーマを豊川市の「まちおこし」に学ぶとして、B-1グランプリのお話をいろいろ聞き

翌日のオプション企画では、豊川稲荷をボランティアガイドさんの案内で見学し、その後、豊川海軍工廠の跡地、工廠犠牲者供養塔、平和の像等戦争遺跡と平和施設などを安間さんの案内で見学しました。参加者は13名でした。

豊川市は、「平和都市宣言」を平成7年8月7日に制定しています。「昭和20年8月7日、私たちのまちでは、豊川海軍工廠の被爆によって、動員学徒や女子挺身隊員を含む工員、職員ら2,500名以上の尊い命が奪われ、身をもって戦争の悲惨さを体験しました。そして、この被爆と前後して、私たちの国は、世界で最初の核被爆国となりました。(中略)人権を尊重しあい、平和を愛する心を育て、人類の絶滅につながる核兵器の廃絶を訴え、



八木憲一郎さん(実行委員)

ました。最後に笠原さんが話されたのは、うまいもの売って儲けるのではなくて、ご当地グルメを通してまちおこしをするということで、名前も「豊川いなり寿司」で豊川市を盛りあげ隊、あくまでも豊川市を盛りあげることが本質だということをお話いただいたように思います。

そんなお話の中から私が思いましたのは、人と人のつながりが強調されていたよくわかるお話だったということです。参加している人たちの自立、まちおこしをする人たちの自立が強調されています。そしてお金よりも運動でつくっていくということが印象に残りました。理屈抜きに楽しく、みんなが楽しむことがまちおこしの中で重要で、ものを売るのではなくて、まちづくり、まちおこしのシステム、ソフトウェアみたいなものがB-1グランプリの中に生きていて、そんなことが今日のお話の中にあっただと感じました。くらしやまちづくりは、平和あってこそそのものです。平和をしっかりとベースにおいてみんなで語り合うことが大事だと思います。

地球の平和と安全の確保を希求するため、ここに平和都市を宣言します。」というすばらしい宣言です。豊川海軍工廠のことを、小中学生にもわかりやすく知らせるための冊子も作成しています。今回、資料提供のご協力をいただきました。また、豊川市観光協会(「豊川いなり寿司」で豊川市を盛りあげ隊事務局)の山口智司さんには今回の企画に際し、たいへんお世話になりました。紙面をお借りしてお礼を申し上げます。



情報クリップ

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(税別)
<p>子どもたちの 心と体を育むために</p> <hr/> <p>COOP NAVI</p> <p>2013.12 741</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>特集 子どもたちの心と体を育むために - 生協の食育活動</p> <p><仲間たちはいま>生活クラブ生協(奈良)共同購入部 森 一誠さん <防災365日> PART9 知っておきたい防災情報の基礎 <宅配・現場レポート> みやぎ生協 高齢者見守り協定の締結 <突撃 あなたの街の組合員活動> コープさっぽろ あうもりサポーター <生協の店づくり最前線> 福井県民生協 ハーツたけふ店 <ボクらは商品探偵団> お鍋ひとつで長崎風ちゃんぽん <つながろうCO・OPアクション情報> 東海コープ事業連合 <食品のはてな?BOX今月のテーマ> 「冷凍食品」 <明日のくらしささえあう COOP共済> コープあきた <林家たい平 笑顔が見たくてこの仕事> 其の九 <CO・OPニュースフラッシュ> コープあおもり パルシステム連合会 <思わず話したくなる!生協の基礎知識> 第9回 [生協の大運動編] <この人に聞きたい> タレント 春香クリスティーンさん <もっと知りたい! CO・OP商品> 北海道ミックスチーズ 北海道カマンベール</p>	<p>2013年 12月 A4版 39頁 定価 350~円</p>
<p>医療福祉生協と 成年後見</p> <hr/> <p>医療生協の情報誌 COMCOM</p> <p>2013.12 556</p> <p>日本医療福祉生活協同組合 連合会</p>	<p>特集 医療福祉生協と成年後見</p> <p>[インタビュー] 落語「後見爺さん」から学ぶ、成年後見制度 落語家 桂ひな太郎 [レポート] 生協・NPOによる成年後見活動 [パンビのつぶやき] 「平和的解決」せきちゃいます 本のおもちゃ屋 店主 中根桂子 [住まう] 入院患者から生活者へ(前編) [介護十人十色] 老いを支えて 特別養護老人ホーム入所を待つ思いを綴って 特別養護老人ホーム入居待機者家族会 [TOMOそだち] 不安を抱える子どもたちや若者たち 安心して過ごせる居場所の提供から始まった NPO法人 仕事工房ポポロ 代表 中川健史(たけし)・理事 南出吉祥 [協同のある風景] 211 空き家から人が集まるサロンへ 「大原さん家」のきずなサロン ひまわり 東京西部保健生協</p>	<p>2013年 12月 A4版 40頁 定価 400円</p>
<p>農家の知恵(レシピ)を いただきます~す</p> <hr/> <p>はじめる!人がつながる 社会が変わる のんびる</p> <p>2013.12 No.86</p> <p>パルシステム 生活協同組合連合会</p>	<p>【特集】 農家の知恵(レシピ)をいただきます~す</p> <p>* かんたん・おいしい! 農家の母さん発 もっと野菜を食べたくなるレシピ 千葉県香取市 佐原農産物供給センター 農め~くくらぶ * 「“までい”な味噌料理も受け継いでいってね」 福島県相馬郡飯舘村 館野栄子さん(佐須加工グループ代表) * 福島の仮設住宅・発 檜葉の母さんのすいとん。 高木キヨ子さん(福島県檜葉町出身) * 南三陸に旨いものあり「おらはの水だこ、食べてけさい~ん」 宮城県本吉郡南三陸町 阿部民子さん(たみこの海パック代表) * 土地の料理を引き継ぎながら畑発ひらめき料理も 埼玉県富士見市 柳下トシ子さん&柳下久実さん * ヤマセ吹く風土野趣豊かな雑穀はかつての主食でした 岩手県九戸郡軽米町 小林卓さん(株式会社軽米町産業開発) はたらくよこびデザイン室 東京都目黒区 内山節 里山から考える 第48回 年をとると、やるが増えてくる 老いについて(3) 色平哲郎の「地域と医療からみる未来のかたち」第21回 日本人の長寿の要因「ソーシャル・キャピタル」</p>	<p>2013年 12月 B5版 51頁 定価 315円</p>

<p>経済社会構造と消費者の変化に生協は応えているのか</p> <hr/> <p>生活協同組合研究</p> <p>2013.12 455</p> <p>(財)生協総合研究所</p>	<p>巻頭言 組合員の参加を考える……… 金子隆之</p> <p>特集 経済社会構造と消費者の変化に生協は応えているのか</p> <p>開会挨拶 生源寺眞一</p> <p>挨拶に代えて 中川雄一郎</p> <p>日本の経済社会構造の変化と今日の暮らし 武田晴人</p> <p>武田講演に関するコメントと回答 栗本昭・武田晴人</p> <p>今日の消費者の動向とデータが示す生協組合員の暮らし 天野晴子</p> <p>コープさっぽろからの実践報告 大見英明</p> <p>大阪いずみ市民生協からの実践報告 藤井克裕</p> <p>解題:生協の新しい価値を作り出すためのヒント 若林靖永</p> <p>被災地からの報告</p> <p>2013年上半期の志津川事情を語る 高橋源一、佐藤俊光</p> <p>海外情報</p> <p>ファゴールの経営危機の提起する課題 大津荘一</p> <p>ファゴールの倒産について (速報) 廣田裕之</p> <p>本誌特集を読んで (2013.10) 加藤好一</p> <p>私の愛読書</p> <p>ウルリヒ・ベック 『危険社会』 萩原優騎</p> <p>ロザリンド・H・ウィリアムズ 『夢の消費革命』 鈴木岳</p>	<p>2013年 12月 88頁 B5版</p>
<p>JA支店等を拠点としたJA地域暮らし戦略の展開</p> <hr/> <p>月刊JA</p> <p>2013.12 706</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>特集 JA支店等を拠点としたJA地域暮らし戦略の展開</p> <p>JAトップが先頭に立って「JA地域暮らし戦略」の策定・実践を JA全中暮らしの活動推進部 小林元</p> <p>支店を拠点とした課題の活動と方向性 地域の子育て世代へのアプローチ - 大学との連携によるJA横浜の「保育付き！子育てママ・パパ料理教室」 福田いずみ 石田正昭</p> <p>支店を拠点としたJA暮らしの活動にきたいするもの 童門冬二</p> <p>「きずな春秋」 - 協同のこころ</p> <p>「ミノーレからこんにちは」 / JAグループの共通コンテンツ</p> <p>「協同の実践に学ぶ」 先人の言葉・宮部一郎 白石正彦</p> <p>「直言！JAへのメッセージ」</p> <p>食文化伝承に欠かせない食材の多様性 高橋ひとみ</p> <p>「協同組合の広場」 日本生協連、JF全漁連、全森連、全国信用金庫協会</p> <p>「次代へつなぐ地域社会のために」</p> <p>金融店舗の今日的CS対策 ~JAとびあ浜松の取り組み 西井賢悟</p> <p>「展望 JAの進むべき道」</p> <p>今こそ、オールJAの総合力で地域農業戦略による農業所得の向上を実現する 大西茂志</p> <p>「地方紙ニュース」</p> <p>第33回 増える新規就農者 木下享 (四国新聞社)</p> <p>・海外だより [DC通信] 31</p> <p>アメリカ新農業法の議論 古林秀峰</p> <p>・協同の力で農業と地域を豊かに</p> <p>住民と病院が手を携えて地域を守る 前編 ~JA愛知厚生連足助病院 (愛知県豊田市) 青山浩子</p> <p>「次代へつなぐ協同実践塾」</p> <p>・持続可能な農業の実現</p> <p>JAグループの食品表示と消費者の信頼関係 JA全中営農部・JA農地総合対策部</p> <p>・豊かで暮らしやすい地域社会の実現 JA健康寿命100歳プロジェクトの取り組み JA全中暮らしの活動推進部</p> <p>・10年後JAが存続するために JA経営マスターコースのめざすもの JA全中教育部 JA全中経営対策本部</p>	<p>2013年 12月 A4版 64頁 年間購読料 4,800円 (送料込)</p>

<p>脱原発社会を 展望する</p> <hr/> <p>社会運動</p> <p>2013.11 404</p> <p>市民セクター政策機構</p>	<p>特集 脱原発社会を展望する 「原子力市民委員会」のめざすもの 電力システム改革からみた原子力発電 原発事故と食 立地地方自治体の経済と脱原発 自治体・市民の自然エネルギー実践最前線 NGOシナリオが示す、日本の持続可能なエネルギーの未来 エネルギー自立都市をめざす被災地・東松島市</p> <p>船橋晴俊（法政大学） 高橋洋（富士通総研 経済研究所） 林薫平（福島大学） 朴勝俊（関西学院大学） 増原直樹（環境自治体会議環境政策研究所） 平田仁子（気候ネットワーク）</p> <p>・日本の原子力政策史 原発・エネルギー関連資料 原発・エネルギー関連の主な法律 日本の原発マップ 原発・エネルギー政策をめぐる政府機関・審議会等の主な動き ドイツの選択 - 「原発」に関する倫理的立場をめぐって 坪郷實（早稲田大学） 世界の自然エネルギー動向 飯田哲也（環境エネルギー政策研究所） 問題が山積する原発輸出 田邊有輝（「環境・持続社会」研究センター）</p>	<p>2013年 11月 B5版 60頁 頒価500円</p>
<p>TPP問題の構図と 国際関係</p> <hr/> <p>文化連情報</p> <p>2013.12 429</p> <p>日本文化厚生農業協同組合 連合会</p>	<p>消費税による社会保障や経済への影響 院長リレーインタビュー（274） 地域住民と寄り添っていく病院を目指し 二木学長の医療時評（118） 私が『保険外併用療養拡大』より『法定患者負担拡大』を危惧する理由 二木立 医師確保の工夫（1） 医師はどこに向かっているのか、何をもとめているのか 成果をあげるためのリハビリ部門の体制整備 TPP問題の構図と国際関係 社会的資産としての病院建築（11） 建物の抱えるリスクのマネジメント イギリスの医療制度はどこに向かうのか（9） NHS病院の経営主体 岡田玲一郎の間歇言（121） 急性期病床過剰時代？とこの先に来る変化はないか 医療制度改革と機能碎片 - どのような経営をめざしますか？ 小諸厚生総合病院実践保健大学30年のあゆみ プロスタント・ディアコニー・クランケンハウス・フライブルグ 野の風 陶芸の案内 デンマーク&世界の地域居住(55) デンマークの最新事情：在宅ケアのパラダイムシフト 火の国からのアンチエイジング（23） 伝統医療の柱は、ゆがみの治療 旅の途中で（56） いい本を書かねば 柞の森から（57）手紙 旅する私の素敵な出会い（3）女神が舞い降りた</p> <p>伊藤幸男 長谷 智 藤谷豊 沼尻一哉 孫崎享 遠藤和義 堀真奈美 岡田玲一郎 平間好弘 小磯明 小磯明 毛塚養治 松岡洋子 久光正太郎 畠山重篤 熊谷龍子 山本京子</p>	<p>2013年 12月 B5版 80頁 文化連情報 編集部 03-3370- 2529 *注</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(※)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

あなたはTPPのことどれだけ知っていますか 改めて基礎から知る「TPP勉強会inぎふ」

2014年1月26日(日)13:30~15:30(受付13:00)

会場:ワークプラザ岐阜3階大会議室(岐阜市鶴舞町2-6-7)

参加費無料

講師:岩月浩二('TPPに反対する弁護士ネットワーク'共同代表)

【問合せ先】 コープぎふ組合員組織部 担当:千葉 TEL.058-370-6873(9:00~17:00 土日休み)

【申込先】 青木文子司法書士事務所 FAX.050-3488-9853

参加希望の方は、所属、氏名、電話番号を記入してFAXにて申込み

【共催】 岐阜青年司法書士会、生活協同組合コープぎふ、協同ネットワークぎふ

協同労働の協同組合 子ども・若者フォーラム2014 コチラ <http://www.roukyou.gr.jp/>

● 困難を絆に 子育ての社会化を考える~動き出した子どもたち。そこから何を学ぶのか...~

1日目(全体会) 2014年1月11日(土) 10:00~17:30 早稲田大学戸山キャンパス

2日目(分科会) 1月12日(日) 9:30~16:00 早稲田大学戸山キャンパス(各教室)

主催:子ども・若者フォーラム2014実行委員会 (NPO法人ワーカーズコープ・日本子どもを守る会編子ども白書編集委員)

協力:一般社団法人日本社会連帯機構・日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会・一般社団法人協同総合研究所

書籍案内



老人漂流社会 他人ごとではない“老後の現実”

著: NHKスペシャル取材班

発売日: 2013/11/22 判型: 四六判 ページ数: 235p

定価: 1,365円(税込)

「唯一の解決策は目を背けないことだ」

菊池寛賞受賞「無縁社会」から3年後のニッポンはいま... 反響を呼んだNHKスペシャル待望の書籍化!

病院や介護施設をたらい回され「死に場所」を持たない男性、自宅を失った高齢者の「終の住処」と化した三畳一間の宿泊所、自分も周りも気づかずホームレスになってしまった認知症の高齢者など、超高齢社会に住む我々が目を背けてはならない現実を徹底取材。

自分の居場所を自分で選べずに「漂流」してしまう現状に警鐘を鳴らしつつ、「奇跡の共同住宅」という希望の光も示すノンフィクション。

主婦と生活者ホームページより

2013年12月25日発行(毎月25日発行)

定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 川崎直巳

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com

HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>

研究センター 1月の活動予定

8日(水) 三河地域懇談会 実行委員会

11日(土) マイスター実践交流会

地域福祉を支える市民協同パネル世話人会

14日(火) 常任理事会

16日(木) 組合員理事ゼミナール・世話人会

18日(土) 共同購入事業マイスターコース第6回

20日(月) 協同の未来塾企画委員会

21日(火) 暮らしを語りあう会

22日(水) F職員の仕事を考える

25日(土) 東海交流フォーラム実行委員会/理事会

29日(水) NEWS編集委員会

30日(木) 環境パネル世話人会 31日(金) 常任理事会